

日本藻類学会
第四十三回大会
京都 二〇一九



学会会長 奥田 一雄
大会会長 宮下 英明

京都大学 吉田南構内
(〒606-8501 京都府京都市左京区吉田二本松町)
2019年3月15日(金)～17日(日)

主催：日本藻類学会
共催：京都大学大学院 人間・環境学研究科 学際教育研究部
支援：公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー

1. 会場までの交通・宿泊 (図 1, 2)

- ・空路:「伊丹空港」→京都駅八条口行シャトルバスに乗りし「京都駅八条口」で下車→京都市バス 206 号系統に乗り換えて「京大正門前」で下車 (徒歩 5 分)。または京都駅から京都市バス 17 号系統に乗り換えて「百万遍」で下車 (徒歩 10 分)。
「関西国際空港」→特急はるかに乗りし「JR 京都駅」で下車→京都市バス 206 号系統に乗り換えて「京大正門前」で下車 (徒歩 5 分)。または京都駅から京都市バス 17 号系統に乗り換えて「百万遍」で下車 (徒歩 10 分)。
- ・JR:「JR 京都駅」→京都市バス 206 号系統に乗り換えて「京大正門前」で下車 (徒歩 5 分)。または京都駅から京都市バス 17 号系統に乗り換えて「百万遍」で下車 (徒歩 10 分)。
- ・その他の経路については図 1, 2 をご参照ください。乗用車でのご来場はご遠慮ください。
- ・京都大学 HP のキャンパスマップもご参照ください (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/>)。
- ・会場の京都大学周辺には宿泊施設がほとんどありませんが、大会実行委員会よりホテル等の斡旋は行いませんので、各自でお調べいただき手配をお願いいたします。また、京都市内ホテルの客室稼働率は高い傾向にあり、大会直前に予約すると宿泊が確保できないことも予想されます。できるだけ早めに予約されることをお勧めします。

2. 会場 (図 2-5)

- 大会: 京都大学吉田南構内・吉田南総合館 (図 2-5)
編集委員会・評議員会: 総合人間学部棟 1207 室 (評議員控室: 同 1103 室) (図 3, 4)
総会: 吉田南総合館 (A 会場) (図 5)
懇親会: 京都大学北部構内・北部食堂 2 階 (図 2)
シンポジウム: 京都大学本部構内・国際科学イノベーション棟 5 階 (図 2)
藻類学ワークショップ A: 総合人間学部棟 2 階 1201 室 (宮下研) (図 4)
藻類学ワークショップ B: 琵琶湖博物館
レクリエーション: 京都大学吉田南構内テニスコート (図 3)
休憩室: 吉田南総合館 1 階 Bell Lounge (ポスター会場) (図 5)

3. 日程

2019 年 3 月 15 日 (金)

- 13:00 ~ 18:00 ワークショップ A (色素解析セミナー) 【総合人間学部棟 2 階 1201 室】

- 13:00 ~ 15:00 ワークショップ B (琵琶湖博物館見学) 【琵琶湖博物館】
13:00 ~ 17:00 レクリエーション (テニス大会) 【吉田南構内テニスコート】
15:00 ~ 16:30 編集委員会【総合人間学部棟 2 階 1207 室】
※評議員控室【総合人間学部棟 1 階 1103 室】
16:30 ~ 18:00 評議員会【総合人間学部棟 2 階 1207 室】

2019 年 3 月 16 日 (土)

- 9:00 ~ 12:05 口頭発表【吉田南総合館 2 階共北 25 (A 会場)・2 階共北 26 (B 会場)】
12:05 ~ 13:00 昼休憩
13:00 ~ 14:00 ポスター発表 (奇数番号) 【吉田南総合館 1 階 Bell Lounge】
14:15 ~ 16:20 口頭発表【A・B 会場】
16:45 ~ 18:00 総会【A 会場】
18:30 ~ 20:30 懇親会【北部構内・北部食堂 2 階】

2019 年 3 月 17 日 (日)

- 8:45 ~ 12:05 口頭発表【A・B 会場】
12:05 ~ 13:00 昼休憩
13:00 ~ 14:00 ポスター発表 (偶数番号) 【吉田南総合館 1 階 Bell Lounge】
14:00 ~ 18:00 シンポジウム【本部構内・国際科学イノベーション棟 5 階】

4. 参加受付

- 受付時間: 3 月 15 日 (金) 15:00 ~ 17:00
3 月 16 日 (土) 8:00 ~ 17:00
3 月 17 日 (日) 8:00 ~ 15:00

以下の参加費で当日参加申込を受け付けます。

大会参加費: 7,000 円 (学生 5,000 円, 非学会員の京都大学大学院人間・環境学研究科学生 無料)

懇親会費: 7,000 円 (学生 5,000 円)。

※受付は吉田南総合館 1 階入り口を予定しています (図 5)。
※京都大学大学院 人間・環境学研究科 学際教育研究部との共催のため、本研究科の学生 (非学会員) は参加費無料となっております。

5. クローク

クロークは大会本部に併設いたします【吉田南総合館 2 階共北 28】 (図 5)。以下の時間、荷物 (ただし、貴重品は除く) をお預かりします。

- 3 月 16 日 (土) 8:00 ~ 18:00
3 月 17 日 (日) 8:00 ~ 15:00

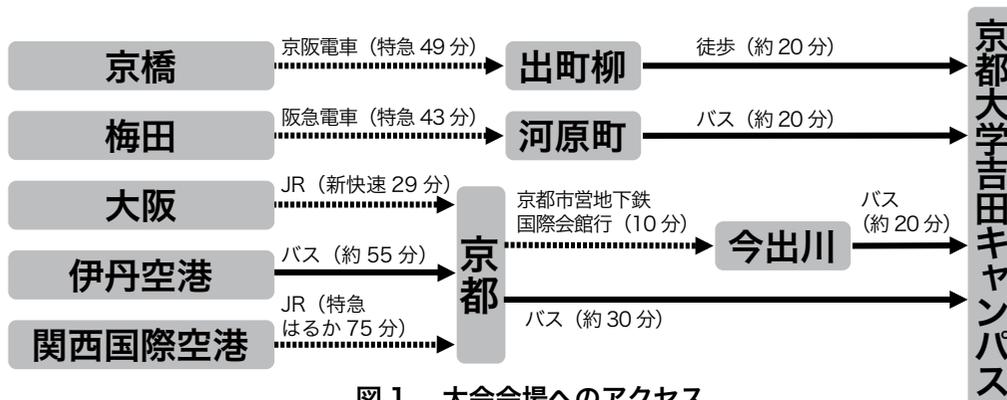


図 1 大会会場へのアクセス



図2 大会会場周辺図（京都大学吉田キャンパス）



図3 大会会場（吉田南構内）

6. 編集委員会・評議員会

編集委員会：3月15日（金） 15:00～16:30
 評議員会： 同 16:30～18:00
 会場【総合人間学部棟2階1207室】(図4)
 評議員控室【総合人間学部棟1階1103室】(図4)
 連絡先：075-753-7894（神川：オフィス）

7. 発表形式

(1) 口頭発表

時間：発表12分，質疑応答3分です。

機器：

- 発表者のパソコンにつないだ液晶プロジェクター（スクリーン1枚）で発表していただきます（OHPは使用できません）。各自でパソコンをご用意下さい（ご自身のパソコンを用意できない方は、あらかじめ実行委員会にご相談ください）。
- 使用する液晶プロジェクターは切替器のミニDsub15ピン外部出力コネクタまたはHDMIを介してパソコンに接続されます。多くのパソコンはこのコネクタで接続できますが、アップル社製パソコン、あるいはDVI接続端子しか持たないパソコンを使用する場合は各自で接続アダプター、変換アダプター等をご用意下さい。また、パソコンのバッテリーだけでは液晶プロジェクターに出力できない場合がありますので、パソコンに電源がとれるよう、電源アダプターをご用意ください。
- 万々に備え、発表用ファイルをコピーしたUSBメモリをお持ち

ち下さい。発表用ファイルに静止画，動画，グラフ等のデータをリンクさせている場合は，それらのデータもUSBメモリに保存して下さい。

次演者の待機：次演者は次演者席でパソコンに電源をとり，OSを立ち上げて下さい。切替器の空いているラインにパソコンを接続して待機して下さい。前演者の講演が終わり次第，次演者はご自身で切替器のスイッチを切り替えていただきます。パソコンのミラーリングの操作はスイッチの切替後に行ってください。

事前の動作確認：スライドの事前動作確認は，休憩時間に会場で行うか，大会本部【吉田南総合館2階共北28】(図5)にてお願いします。

(2) ポスター発表

サイズ：ポスター用紙の大きさは，A0サイズに収まるようにしてください。

貼付用具：ピンまたはテープを大会実行委員会準備します。

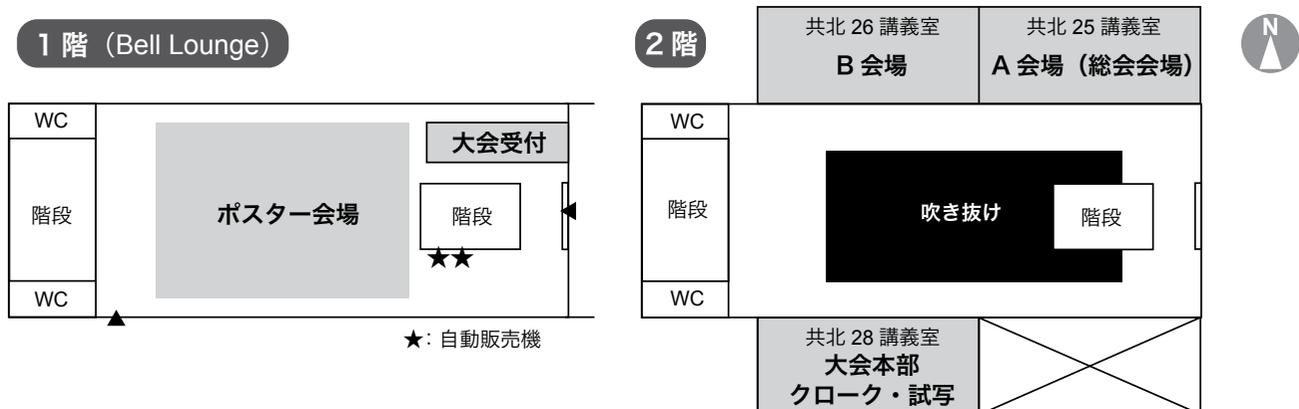
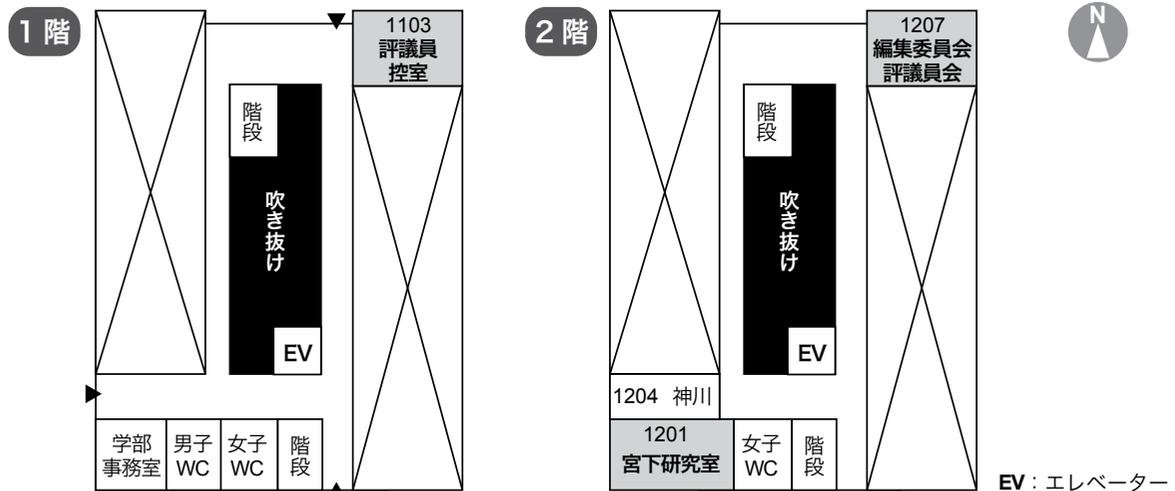
必要記載事項：ポスターの上部に発表番号，表題，氏名（所属）を記入して下さい。

構成：目的，実験（観察）方法，結果，考察，結論について，それぞれ簡潔にまとめた文章をつけて下さい。

写真・図表：それぞれに簡単な説明文を添付して下さい。

フォント・図表サイズ：少し離れた場所からでも判読できるようご配慮ください。

掲示時間：3月16日（土）8:30から掲示できます。12:00頃までに所定の場所に掲示し，17日（日）15:00頃までに撤収して下さい。



★：自動販売機

8. 日本藻類学会第43回京都大会 公開シンポジウム

*参加費無料，事前申込不要です。皆様のご参加をお待ちしております。

タイトル：琵琶湖における藍藻類ブルームの現状と問題点、対策と展望

日時：平成31年3月17日（日）14:00～18:00

会場：京都大学国際科学イノベーション棟5Fシンポジウムホール（図2）

世話人：今井一郎（琵琶湖博物館）・大塚泰介（琵琶湖博物館）・宮下英明（京都大学）

講演者：石川可奈子（琵琶湖環境科学研究センター）

一瀬諭（琵琶湖環境科学研究センター）

今井一郎（琵琶湖博物館）

中野伸一（京都大学）

新山優子（国立科学博物館）

根来健（元 京都水道局）

企画趣旨：アオコとは、湖沼において浮遊性藍藻類が水面に集積して起こる水の華（ブルーム）のことであり、水資源利用、漁業、農業、観光、そして生物多様性や食物網等の生態系の構造や機能に様々な悪影響を及ぼす。近畿地方の水瓶ともいえる琵琶湖において、アオコは1983年に初めて発生が確認されて以来、優占種を交代しながら、1984年および2014年を除いてほぼ毎年発生が確認されている。アオコは一般に、生物の体を構成する主要材料である窒素やリン等の栄養塩類の過剰、すなわち富栄養化が進むと頻発するようになる。しかしながら琵琶湖では、富栄養化対策によって湖水中の窒素やリンの濃度が低下してきたにもかかわらず、アオコは依然として発生し続けている。また近年では、新たに底生藍藻類の大量発生も問題になってきている。以上から琵琶湖の藍藻類について、分類、生理、生態、個体群動態等の現段階における研究の到達点を整理し、アオコのモニタリングや上水処理の現状等を学ぶことには大きな意義がある。本シンポジウムでは、近年のアオコに関する研究成果を総括し、さらに藍藻類に関して新たに発生するようになった現象や、環境に優しいアオコの抑制対策等の最新の研究成果を紹介し、これからの研究の進展方向について展望する。

9. 藻類学ワークショップ

ワークショップA「HPLCによる色素解析セミナー」

内容：クロロフィル、カロテノイド、フィコビリタンパク質など藻類の色素は、藻類の分類学的位置、環境サンプル中の植物プランクトン組成などの知ることのできる有用なマーカーです。また、藻類は様々なストレスにตอบสนองして産業上有用なカロテノイドなどを生産することも知られています。本ワークショップでは、藻類の色素分析法として簡便かつ有用な方法であるHPLC法を用いて、藻類の色素組成分析法について学びます。

講演者：宮下英明

実験指導：宮下研究室メンバー

日時：2019年3月15日（金）13:00～18:00

場所：京都大学吉田南構内総合人間学部棟1201室（図4）

申し込み：定員に達しましたので申し込み受け付けは終了しました

問い合わせ：miyashita.hideaki.6v@kyoto-u.ac.jp（宮下英明）

ワークショップB「琵琶湖博物館見学会」

内容：滋賀県立琵琶湖博物館は、人間と湖のよりよい共存関係を築くことを目指してつくられた、日本有数の規模を誇る総合博物館です。あらゆる人びとが、展示や交流活動、研究・調査活動などに関わることができ、楽しみながら学び考え、出会いの場となる博物館を目指しています。本見学会では、展示見学の中で学芸員が、琵琶湖博物館がいかにしてともに学ぶ場を創り出してきたかを紹介します。この経験が、参加者それぞれの教育現場に生かされることを期待しています。

日時（予定）：2019年3月15日（金）13:00～15:00

場所：滋賀県立琵琶湖博物館

申し込み：以下のメールアドレスまで事前にお申込みください（最大20名）。集合時間や集合場所はお申込みされた方に追って連絡差し上げます。

ohtsuka-taisuke@biwahaku.jp（大塚泰介）

10. レクリエーション

藻類学会員の親睦を深めるため、テニス大会を以下のように企画しています。参加希望者はご連絡下さい。

日時：2019年3月15日（金）13:00～17:00

場所：京都大学吉田キャンパス吉田南構内テニスコート（図3）

連絡先：山口晴代（国立環境研究所）E-mail: yamaguchi.haruyo@nies.go.jp

11. 第43回京都大会実行委員会

大会長：宮下英明（京都大学）

実行委員長：福澤秀哉（京都大学）

委員：今井一郎（琵琶湖博物館）

委員：大塚泰介（琵琶湖博物館）

委員：野村真未（京都大学）

委員：幡野恭子（京都大学）

委員：程木義邦（京都大学）

委員：白石英秋（京都大学）

委員：神川龍馬（京都大学）

12. 共催・支援

京都大学大学院 人間・環境学研究科 学際教育研究部（共催）
公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー（支援）

13. 協賛（五十音順）

カネリョウ海藻株式会社（<https://www.kaneryo.co.jp/>）

旭光通商株式会社（<http://www.kyokko.com/>）

株式会社SEEDBANK（<https://microalgae-seedbank.com/>）

株式会社生物技研（<https://gikenbio.com/>）

北海道システムサイエンス株式会社（<https://www.hssnet.co.jp/>）

和研薬株式会社 WAKENYAKU CO., LTD.（<https://www.wakenyaku.co.jp/>）

14. 問い合わせ先

日本藻類学会第43回京都大会実行委員 神川龍馬

E-mail: kamikawa.ryoma.7v@kyoto-u.ac.jp

日本藻類学会第 43 回大会講演プログラム

3月16日(土) 午前の部

9:00 – 12:05 口頭発表

A 会場 (2 階共北 25)		B 会場 (2 階共北 26)	
9:00	A01 Dynamic resilience and stability of <i>Ecklonia radiata</i>: the importance of density-dependent ecosystem engineering feedbacks ○Masayuki Tatsumi・Cayne Layton・Matthew Cameron・Victor Shelamoff・Craig Johnson・Jeff Wright (IMAS, University of Tasmania)	B01 渦鞭毛藻 <i>Prorocentrum dentatum</i> と自由生活性バクテリアとの“緩やかな共生関係” ○鈴木 重勝・山口 晴代・河地 正伸 (国立環境研究所)	
9:15	A02 千葉県館山市坂田地先におけるナガミルの季節的消長と成熟時期 ○宮代 穰 ¹ ・秋田 晋吾 ² ・山本 敬介 ¹ ・藤田 大介 ¹ (¹ 海洋大・応用藻類, ² 神戸大・内海域セ)	B02 ラビリンチュラ類 <i>Aplanochytrium</i> が栄養源とする藻類の検討と物質転送 ○茂木 大地 ¹ ・浜本 洋子 ^{2,3} ・今井 博之 ^{1,3} ・本多 大輔 ^{1,3} (¹ 甲南大・理工, ² 甲南大・院・自然科学, ³ 甲南大・統合ニューロ研)	
9:30	A03 藻場に及ぼすウニ類個体密度の影響から推定した三重県沿岸の藻場の状態評価 ○比嘉 瑠 ¹ ・藤原 寛斗 ¹ ・加藤 葉 ² ・石川 達也 ³ ・倉島 彰 ¹ (¹ 三重大院・生物資源, ² 増養殖研, ³ 尾鷲市役所)	B03 ラビリンチュラ類の生態学的役割とその影響 ○浜本 洋子 ^{1,2} ・庄野 孝範 ³ ・中井 亮佑 ⁴ ・上田 真由美 ⁵ ・長井 敏 ⁶ ・本多 大輔 ^{2,3} (¹ 甲南大・院・自然科学, ² 甲南大・統合ニューロ研, ³ 甲南大・理工, ⁴ 産総研, ⁵ 大阪環農水研, ⁶ 水研セ・中央水研)	
9:45	A04 宮城県石巻市狐崎浜における海藻群落の時空間的变化 ○鈴木 李奈 ¹ ・伊藤 浩吉 ² ・猪股 英里 ² ・吾妻 行雄 ² ・青木 優和 ² (¹ 東北大・農, ² 東北大・院・農)	B04 Chl <i>f</i> 産生シアノバクテリアに見られる蛍光特性の多様性とその要因に関する考察 ○長島 章浩 ¹ ・大野 智輝 ¹ ・小杉 真貴子 ² ・小林 正美 ³ ・小池 裕幸 ² ・神川 龍馬 ¹ ・宮下 英明 ¹ (¹ 京大・院・人間環境, ² 中央大・理工・生命科学, ³ 筑波大・応用理工・物質工学)	
10:00	A05 海藻の形状変化が与える光合成速度と栄養塩吸収速度への影響 ○大崎 幸一 ¹ ・井上 幸男 ¹ ・日野出 賢二郎 ¹ ・紙崎 星美 ¹ ・大竹 正弘 ² ・寺田 竜太 ³ ・Gregory N. Nishihara ⁴ (¹ 長崎大・院・水環, ² 創価大・院・工, ³ 鹿児島大・連農, ⁴ 長崎大・海洋機構)	B05 ヘリオバクテリア <i>H. modesticaldum</i> 反応中心のキノン分析 ○真弓 智仁 ¹ ・仲庭 哲津子 ² ・大橋 俊介 ¹ ・大岡 宏造 ³ ・小林 正美 ¹ (¹ 筑波大・物質工学分域, ² 大阪大・蛋白研, ³ 大阪大・理・生物)	
10:15	A06 千葉県館山産アイゴ <i>Siganus fuscescens</i> の食性の季節変化 ○瀬戸 龍太郎 ¹ ・秋田 晋吾 ^{1,2} ・山本 敬介 ¹ ・西岡 浩 ¹ ・二羽 恭介 ¹ ・藤田 大介 ¹ (¹ 海洋大・応用藻類, ² 神戸大・内海域セ)	B06 クロララクニオン藻におけるピレノイド構成タンパク質の探索 ○福田 耕大 ¹ ・平川 泰久 ² (¹ 筑波大・生命環境科学, ² 筑波大・生命環境系)	
10:30–10:35	休憩	休憩	
10:35	A07 アカモクおよびヒジキの卵からの種苗生産の試み ○吉永 拓海・桑野 和可 (長崎大・院・水環)	B07 クラミドモナス細胞分裂時における UGP と USP の遺伝子発現と酵素活性に関する研究 ○小谷 彩奈 ¹ ・前田 美奈子 ² ・小西 照子 ^{1,2} (¹ 鹿児島大・連農, ² 琉球大・農)	
10:50	A08 テングサ場の異なる被度での葉上動物相の比較 ○山本 敬介 ¹ ・秋田 晋吾 ^{1,2} ・橋本 友明 ¹ ・宮代 穰 ¹ ・二羽 恭介 ¹ ・藤田 大介 ¹ (¹ 海洋大・応用藻類, ² 神戸大・内海域セ)	B08 電磁界培養によるオイル産生藻類の量産化効果 ○福西 光明・長谷川 拓哉・長田 昭義 (大阪工業大学大学院工学研究科電気電子・機械工学専攻)	
11:05	A09 褐藻 <i>Sargassum macrocarpum</i> の伸長期から成熟期におけるリン吸収・要求速度の変動 ○大竹 正弘 ¹ ・Gregory N. Nishihara ² ・井上 幸男 ³ ・大崎 幸一 ³ ・戸田 龍樹 ¹ (¹ 創価大・院・工, ² 長崎大・海セ, ³ 長崎大・院・水環)	B09 Morphology, phylogeny and pigment composition of <i>Karlodinium</i> spp. (Dinophyceae) from Japan and Philippine coastal waters ○Garry Benico ¹ ・Kazuya Takahashi ² ・Wai Mun Lum ¹ ・Mitsunori Iwataki ² (¹ Graduate School of Agricultural and Life Sciences, Univ. Tokyo, ² Asian Natural Environmental Science Center, Univ. Tokyo)	

- 11:20 **A10 Metabolites changes in Wakame and Mekabu after immerse into boiling water**
 ○Shahlizah Binti Sahul Hamid^{1,2}・Masataka Wakayama^{1,2}・Yujin Ashino¹・Rie Kadowaki¹・Tomoyoshi Soga^{1,2}・Masaru Tomita^{1,2} (¹Institute for Advanced Biosciences, Keio University; ²Systems Biology Program, Graduate School of Media and Governance, Keio University)
- 11:35 **A11 藻場のキャノピー構造が光合成速度に及ぼす影響**
 ○井上 幸男¹・日野出 賢二郎¹・大崎 幸一¹・紙崎 星美¹・大竹 正弘²・戸田 龍樹²・寺田 竜太³・Gregory N. Nishihara⁴ (¹長崎大・院 水環, ²創価大・院 工, ³鹿児島大・院 農連, ⁴長崎大・海洋機構)
- 11:50
- B10 トランスクリプトーム解析と系統学的位置からみた太陽虫 *Actinophrys sol* の葉緑体進化**
 ○東 智範¹・Tomas Panek²・Alex Tice²・加山 基³・小林 真弓^{4,5}・宮下 英明³・洲崎 敏伸⁴・Matthew W Brown²・神川 龍馬³ (¹京都大学総合人間学部, ²Mississippi 州立大学, ³京都大学大学院人間・環境学研究所, ⁴神戸大学理学研究科, ⁵中央水産研究所)
- B11 過酷な生育環境から単離された微細藻類の系統分類と生理解析**
 ○吉田 梨沙子・豊島 拓樹・佐保 好亮・川崎 信治 (東農大・院・バイオ)
- B12 非光合成性無色珪藻類におけるクロロフィル生成の進化**
 ○加山 基¹・野村 真未¹・後藤 みなみ²・矢吹 彬憲³・宮下 英明¹・真山 茂樹²・柏山 祐一郎⁴・神川 龍馬¹ (¹京都大学大学院人間・環境学研究所, ²東京学芸大学教育学部, ³海洋研究開発機構, ⁴福井工業大学)

12:05 – 13:00 昼休み

3月16日(土) 午後の部

13:00 – 14:00 ポスター発表 (奇数番号)

- PA01 瀬戸内海中央部に生育するアカモク集団の *cox3* による地理的解析**
 ○山岸 幸正・下園 隼仁・井町 拓巳・松岡 美希・細谷 匠平・寺尾 剛史・前田 亜喜良・三輪 泰彦 (福山大・生命工)
- PA03 シャジクモ (*Chara*) 属 *Charopsis* 節の分類学的再検討**
 玉置 千紘¹・Adriana Garcia²・Zhongmin Sun³・Wuttipong Mahakham⁴・川井浩史⁵・坂山英俊⁶ (¹神戸大・理, ²University of Wollongong, ³Chinese Academy of Sciences, ⁴Khon Kaen University, ⁵神戸大・内海域セ, ⁶神戸大・院・理)
- PA05 日本産ハナフノリ (スギノリ目フノリ科) の分類の再検討**
 ○山村 健将¹・羽生田 岳昭²・川井 浩史² (¹神戸大・院・生物, ²神戸大・内海域セ)
- PA07 日本産紅藻ハスジグサ属の分類学的再検討**
 ○鈴木 雅大¹・寺田 竜太²・北山 太樹³・川井 浩史¹ (¹神戸大・内海域セ, ²鹿大・院・連農, ³国立科博)
- PA09 北方領土の択捉島および国後島に分布・生育する紅藻ウラボソの網羅的化学成分分析**
 ○亀川 剛¹・岩間 郁乃¹・白鳥 一至¹・阿部 剛史²・石井 貴広³・鈴木 稔⁴・鎌田 昂¹ (¹静岡理工科大学理工学部, ²北海道大学総合博物館, ³琉球大学農学部, ⁴千葉県立中央博物館分館海の博物館)
- PA11 宮城県志津川湾の海藻相**
 ○福岡 将之^{1,2}・阿部 拓三¹・鈴木 秀和²・神谷 充伸²・田中 次郎² (¹南三陸町, ²海洋大・院・藻類)
- PA13 隠蔽種を名付ける：日本産の褐藻カヤモノリを6種に分ける**
 ○星野 雅和¹・田中 厚子²・上井 進也³・神谷 充伸⁴・平岡 雅規⁵・小亀 一弘¹ (¹北大・院理, ²琉大・理, ³新潟大・理, ⁴海洋大・海洋環境科学, ⁵高知大・総研セ)
- PA15 新潟県沿岸のアカモクにおける季節集団間の遺伝的分化の解析**
 ○本間 由莉¹・奥田 修二郎²・笠原 賢洋³・高橋 文雄³・吉川 伸哉⁴・上井 進也⁵ (¹新潟大院・自然研, ²新潟大・医歯, ³立命館大・生命科学, ⁴福井県立大・海洋, ⁵新潟大・理)
- PA17 紅藻サビノリの葉状体基部と活着力 (ヒキ) との関係**
 ○阿部 真比古・崎山 馨惟・大柱 智美・加藤 大樹・中川 昌大・中山 冬麻・中江 美里・佐藤 朋子・村瀬 昇 (水産機構水大校)
- PA19 東京湾の人工海浜「大森ふるさとの浜辺公園」におけるノリ養殖実験 - 大森 海苔のふるさと館の取り組み -**
 ○滝本 彩佳¹・小山 文大¹・藤塚 悦司²・乾 賢太郎²・二羽 恭介³・鈴木 秀和⁴ (¹特定非営利活動法人 海苔のふるさと会, ²大田区立郷土博物館, ³海洋大・応用藻類, ⁴海洋大・藻類)
- PA21 褐藻ヒジギの止水条件における成長に対する水温と栄養塩濃度の影響**
 ○米盛 裕希子¹・遠藤 光¹・杉江 透¹・寺田 竜太² (¹鹿大・水, ²鹿大・院・連農)
- PA23 青色光照射による養殖ワカメの品質改善とその食害生物の排除効果の検討**
 ○鈴木 貴史¹・遠藤 光²・猪股 英里¹・吾妻 行雄¹・青木 優和¹ (¹東北大・院・農, ²鹿大・水)
- PA25 海洋植物の遺伝子発現に注目した健全性診断システムの開発**
 ○原 淑乃¹・山崎 誠和²・高橋 文雄³・吉川 伸哉⁴・寺田 竜太⁵・畷田 智¹ (¹お茶大・理・生物, ²東京大・院・新領域創成科学研究科, ³立命館大・生命科学・生物工学, ⁴福井県立大・海洋生物資源・生物資源学研究所, ⁵鹿児島大・農水産獣医学・水産学系 連合農学研究科)

- PA27** 中学生と目指す藻場生態系の保全
 ○Gregory N. Nishihara¹・紙崎 星美²・大崎 幸一²・井上 幸男²・日野出 賢二郎²・Dominic Belleza²・河手 梓³・松田 悠平³・畑田 菜緒³ (¹長崎大学 海洋機構, ²長崎大学院・水環境, ³長崎大学水産)
- PA29** 褐藻タマハキモクの光合成に対する光と温度の影響
 ○伊藤 友洋¹・Gregory N. Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (¹鹿大・水, ²長大・環シナ海セ, ³鹿大・院・連農)
- PA31** 褐藻ヤマタモクの光防御色素に対する強光・低温順化の複合作用
 ○遠藤 光¹・奥村 裕²・寺田 竜太³ (¹鹿大・水, ²水研機構・東北水研, ³鹿大・院・連農)
- PA33** 藻場生態系における一次生産と環境要因の関係
 ○河手 梓¹・井上 幸男²・大崎 幸一²・紙崎 星美²・松田 悠平¹・寺田 竜太³・Gregory N. Nishihara⁴ (¹長崎大学 水産, ²長崎大学院・水環境, ³鹿児島大学院・連農, ⁴長崎大学 海洋機構)
- PA35** 沖縄島沿岸におけるガラモ場の分布とその形成要因
 ○鈴木 はるか¹・阿部 博哉¹・島袋 寛盛²・熊谷 直喜¹・山野 博哉¹ (¹国立環境研究所, ²水研機構・瀬戸内)
- PA37** タイプ産地でのミナミアオサの減少と近縁熱帯種の出現
 ○平岡 雅規¹・田中 幸記¹・山崎 朋人²・三浦 取³ (¹高知大・総研セ, ²高知大・理工, ³高知大・農林海洋)
- PA39** 緑藻ケブカフデモ *Dasycladus vermicularis* の浅所での再発見と宮古諸島からの報告
 ○岩永 洋志登¹・岩橋 浩輔¹・宮本 奈保²・香村 真徳³ (¹(株) 沖縄環境分析センター, ²藻茂, ³琉球大学名誉教授)
- PA41** 新上五島町有川湾に生育するノコギリモク (*Sargassum macrocarpum*) とアマモ (*Zostera marina*) 葉上に付着する珪藻群集の季節消長
 ○紙崎 星美¹・日野出 賢二郎¹・井上 幸男¹・大崎 幸一¹・松田 悠平²・河手 梓²・Gregory N. Nishihara³ (¹長崎大・院・水環, ²長崎大・水産, ³長崎大・海洋機構)
- PA43** Observation of Trait Mediated Indirect Interactions (TMII) of purple urchins in an algal forest patch
 ○Dominic Franco C. Belleza¹・Yuuki Kawabata¹・Gregory N. Nishihara² (¹Graduate School of Fisheries and Environmental Sciences, Nagasaki Univ.; ²OMST, Nagasaki Univ.)
- PA45** 富士北麓、河口湖における沈水植物と車軸藻類の潜水調査結果
 ○中村 誠司¹・渡邊 亮²・松井 悠一郎³・芹澤 (松山) 和世³・芹澤 如比古³ (¹山梨大・院・工, ²山梨大・院・教育, ³山梨大・教育)
- PB01** 2-Methylisoborneol (2-MIB) を産生する *Microcoleus* 属の一分類群について
 ○新山 優子・辻 彰洋 (科博・植物研究部)
- PB03** MT 法 (Mahalanobis-Taguchi 法) の珪藻同定への応用の試み
 大塚 泰介 (琵琶湖博物館)
- PB05** Taxonomic study of *Brasilonema* spp. from three terrestrial localities of Okinawa-jima Island (Cyanobacteria)
 ○Philipp Uli Basa Hutabarat¹・Narumi Iha²・Touki Taira²・Shoichiro Suda³ (¹Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus; ²Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus; ³Faculty of Science, University of the Ryukyus)
- PB07** 琉球列島産 *Microchloropsis* 属株の分類と培養条件の検討
 ○大西 真希¹・江頭 希彩¹・斉藤 仁¹・藤原 健史²・金本 昭彦²・太郎田 博之³・須田 彰一郎¹ (¹琉球大学理学部, ²オービーバイオファクトリー株式会社, ³DIC 株式会社)
- PB09** 沖ノ鳥島の環境中に出現する褐虫藻の多様性
 依藤 実樹子^{1,2}・山下 洋³・鈴木 豪³・中村 良太¹・完山 暢¹・田村 圭一⁴・岡田 亘⁴・波利井 佐紀² (¹(一社) 水産土木建設技術センター, ²琉球大学熱帯生物圏研究センター, ³(国研) 水産研究・教育機構西海区水産研究所, ⁴株式会社エコー)
- PB11** ボルボックス系列緑藻において多細胞ボディプランの進化に寄与した胚発生の変化
 ○山下 翔大・野崎 久義 (東京大・院・理)
- PB13** Morphology and phylogeny of a novel free-living, tidal pool dinoflagellate, *Symbiodinium* sp. from South Africa
 ○Mahmutjan Dawut¹・Stuart D. Sym²・Shoichiro Suda³・Takeo Horiguchi⁴ (¹Graduate School of Science, Hokkaido University; ²School of Animal, Plant and Environmental Sciences, University of the Witwatersrand; ³Faculty of Science, University of the Ryukyus; ⁴Faculty of Science, Hokkaido University)
- PB15** アサリ陸上養殖に向けた餌としての底生性微細藻類の選定
 ○日野出 賢二郎¹・紙崎 星美¹・井上 幸男¹・Gregory N. Nishihara² (¹長崎大・院・水環, ²長崎大・海洋機構)
- PB17** 原始紅藻のバイオマス合成を誘導する外的要因と共通する代謝応答
 ○三角 修己・斎藤 貴史 (山口大・院・創成科学)
- PB19** 盗葉緑体生物 *Rapaza viridis* の RNAi ノックダウン実験
 ○松本 悠河¹・田中 陸雄¹・丸山 萌¹・大沼 亮²・宮城 鳥進也²・柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²国立遺伝研)
- PB21** C/N ストレス条件で葉緑素と脂質を異常蓄積する新奇緑藻変異株 *ccdc124* の解析
 ○長房 すすか・宮本 明日香・新川 はるか・新川 友貴・山野 隆志・梶川 昌孝・福澤 秀哉 (京大・院・生命)
- PB23** オートファジーに依存した緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii* の生存と油脂蓄積
 梶川 昌孝¹・山内 万里花²・新川 はるか¹・田中 学³・幡野 恭子³・西村 芳樹⁴・加藤 美砂子²・福澤 秀哉¹ (¹京大・生命科学, ²お茶大・人間文化創成科学, ³京大・人間環境学, ⁴京大・理学)
- PB25** 親潮域における春季珪藻ブルームの形成機構
 ○桑田 晃¹・黒田 寛²・戸谷 夕子²・渡辺 剛¹・田所 和明¹・西岡 純³ (¹水産機構東北水研, ²水産機構北水研, ³北大低温研)
- PB27** ラビリンチュラ類 *Aplanochytrium* 属株の外質ネットを用いた珪藻からの栄養摂取
 ○高橋 遼¹・本多 大輔^{1,2} (¹甲南大・理工, ²甲南大・総合ニューロ研)

- PB29** 海産管棲珪藻の群体構造分析～第2報～
○牟田神東 陽奈¹・鈴木 秀和²・神谷 充伸² (¹東海大・生命化学, ²海洋大・藻類)
- PB31** 有害渦鞭毛藻へのDNAウイルス感染過程の観察—FIB-SEMを用いた細胞内構造観察の試み
○高野 義人¹・齋 聡子²・兒玉 優³・富岡 尚敬²・外丸 裕司⁴・長崎 慶三¹ (¹高知大院理工, ²JAMSTEC・高知コア研究所, ³マリン・ワーク・ジャパン, ⁴水研機構瀬水研)
- PB33** 陸棲藍藻 *Nostoc commune* (イシクラゲ) は4型に分けられる
坂本 敏夫 (金沢大・理工・生命理工)
- PB35** Chl f産出藻類の光質による色素組成変化
○谷本 千周¹・長島 章浩²・勝野 智也¹・真弓 智仁¹・宮下 英明²・小林 正美¹ (¹筑波大・物質工学科, ²京都大学大学院・人間・環境)
- PB37** 葉緑体から盗葉緑体へ: *Rapaza viridis* における盗葉緑体の成熟プロセス
丸山 萌¹・井上 美桜¹・小山 太基¹・大沼 亮²・洲崎 敏伸³・粟井 光一郎⁴・宮城島 進也²・○柏山 祐一郎¹ (¹福井工大, ²国立遺伝研, ³神戸大, ⁴静岡大)
- PB39** 琉球列島産緑色鞭毛藻類の有効利用研究
○江頭 希彩¹・大西 真希¹・斉藤 仁¹・藤原 健史²・金本 昭彦²・太郎田 博之³・須田 彰一郎¹ (¹琉球大学理学部, ²オーピーバイオファクトリー株式会社, ³DIC株式会社)

14:15 – 16:20 口頭発表

A 会場 (2 階共北 25)

B 会場 (2 階共北 26)

- | | | |
|-------------|---|--|
| 14:15 | A12 生育地の異なるオキナワモズク (<i>Cladosiphon okamuranus</i>) 由来細胞壁多糖の分析
○仲宗根 夏希 ¹ ・田中 厚子 ² ・沼田 雄一郎 ³ ・佐藤 陽一 ³ ・小西 照子 ¹ (¹ 琉球大農, ² 琉球大理, ³ 理研食品) | B13 Transmission electron microscopy of a marine wolozynskioid dinoflagellate <i>Dactylofinium</i> sp. with a novel extrusome structure
○Wai Mun Lum ¹ ・Kazuya Takahashi ² ・Haruyoshi Takayama ³ ・Mitsunori Iwataki ² (¹ Graduate School of Agricultural and Life Sciences, Univ. Tokyo; ² Asian Natural Environmental Science Center, Univ. Tokyo; ³ Kure, Hiroshima) |
| 14:30 | A13 オキナワモズク (<i>Cladosiphon okamuranus</i>) 由来細胞壁多糖の分画
○宇茂佐 真夏・小西 照子 (琉球大学・農) | B14 <i>Paragymnodinium</i> 属渦鞭毛藻 2 新種の微細構造学および系統分類学的研究
○横内 洸 ¹ ・高橋 和也 ² ・岩滝 光儀 ² ・堀口 健雄 ¹ (¹ 北大・院理, ² 東京大・アジアセンター) |
| 14:45 | A14 アオサ藻綱シオグサ目における細胞分裂様式の多様性と進化
○小山 知洋 ¹ ・奥田 一雄 ² ・鈴木 秀和 ¹ ・田中 次郎 ¹ ・神谷 充伸 ¹ (¹ 海洋大・院・藻類, ² 高知大・黒潮圏) | B15 ボルボックス系列緑藻 <i>Pleodorina</i> sp. ホモタリック株の解析
○高橋 昂平 ¹ ・山下 翔大 ¹ ・山本 荷葉子 ¹ ・豊岡 博子 ¹ ・土金 勇樹 ² ・関本 弘之 ² ・野崎 久義 ¹ (¹ 東大・院・理, ² 日本女子大・理) |
| 15:00 | A15 日本産カジメ及びその近縁種 (褐藻コンブ目) の系統地理学的解析
○橋本 一輝 ¹ ・羽生田 岳昭 ² ・秋田 晋吾 ² ・川井 浩史 ² (¹ 神戸大・院・生物, ² 神戸大・内海域セ) | B16 新規培養株を用いた氷雪性緑藻 <i>Chloromonas fukushimae</i> の有性生殖の誘導
○松崎 令 ¹ ・野崎 久義 ² ・河地 正伸 ¹ (¹ 国立環境研究所, ² 東京大・理・生物) |
| 15:15 | A16 紅藻アマノリ類の乾燥適応
○吉川 祥代 ¹ ・寺田 竜太 ² ・渡邊 裕基 ³ ・菊地 則雄 ⁴ ・寫田 智 ¹ (¹ お茶の水女子大学大学院, ² 鹿児島大学大学院連合農学研究科, ³ 神戸大学内海域環境教育研究センター, ⁴ 千葉県立中央博物館分館海の博物館) | B17 <i>Volvox</i> 属 <i>Merrillosphaera</i> 節における性染色体領域の拡大
○山本 荷葉子 ¹ ・浜地 貴志 ² ・豊岡 博子 ¹ ・野口 英樹 ³ ・水口 洋平 ⁴ ・豊田 敦 ⁴ ・野崎 久義 ¹ (¹ 東京大・院・理, ² 京都大・院・理, ³ ゲノムデータ解析支援センター, ⁴ 国立遺伝研) |
| 15:30–15:35 | 休憩 | 休憩 |
| 15:35 | A17 褐藻カヤモノリの単為生殖系統の起源について
○星野 雅和 ¹ ・神谷 充伸 ² ・小亀 一弘 ¹ (¹ 北大・院理, ² 海洋大・海洋環境科学) | B18 炭化水素産生藻 <i>Botryococcus braunii</i> のリアルタイムPCRによる検出法の開発
○平野 昂太郎 ¹ ・原 拓也 ¹ ・Ardianor A ² ・Sulmin G ² ・河村 耕史 ¹ (¹ 大阪工業大学, ² インドネシア・パラカンラヤ大学) |
| 15:50 | A18 国後島近布内産の紅藻ウラボソが産生する新規含ハロゲン二次代謝産物
○亀川 剛 ¹ ・岩間 郁乃 ¹ ・白鳥 一至 ¹ ・阿部 剛史 ² ・石井 貴広 ³ ・鈴木 稔 ⁴ ・鎌田 昂 ¹ (¹ 静岡理工科大学理工学部, ² 北海道大学総合博物館, ³ 琉球大学農学部, ⁴ 千葉県立中央博物館分館海の博物館) | B19 渦鞭毛藻類 <i>Nusuttodinium</i> の盗葉緑体現象から紐解く細胞内共生の進化
○大沼 亮 ^{1,2} ・廣岡 俊亮 ¹ ・藤原 崇之 ¹ ・兼崎 友 ³ ・吉川 博文 ⁴ ・宮城島 進也 ¹ (¹ 遺伝研・遺伝形質, ² JSPS・PD, ³ 東京農大・ゲノム解析セ, ⁴ 東京農大・バイオ) |

16:05

B20 共生できなくなった偏性共生クロレラ *Chlorella variabilis* 変異株のオミクスアプローチによる共生メカニズム解明

○嶺井 隆平¹・保科 亮¹・藍川 晋平²・洲崎 敏伸³・小倉 淳¹ (¹長浜バイオ大学・バイオサイエンス研究科, ²国際農研・生物資源・利用, ³神戸大学・理学研究科)

16:45 – 18:00 **総会 (A 会場)**18:30 – 20:30 **懇親会 (北部食堂 2 階)****3 月 17 日 (日) 午前の部**8:45 – 12:05 **口頭発表**

A 会場 (2 階共北 25)		B 会場 (2 階共北 26)	
8:45	A19 褐藻遊泳細胞の鞭毛に局在するクレアチンキナーゼについて Fu Gang ¹ ・長里 千香子 ² ・寺内 菜々 ³ ・本村 泰三 ² (¹ Dep. of Cell Biol. and Biophy., University of Texas, ² 北大・室蘭臨海実験所, ³ 筑波大・下田臨海実験センター)	B21 赤いあおこちゃん〜フィコエリスリンを持つミクロシスティスのゲノム解析 ○田辺 雄彦 ¹ ・山口 晴代 ² (¹ 筑波大・ABES, ² 国立環境研究所)	
9:00	A20 巨大細胞性緑藻バロニアのプロトプラスト再生における細胞成長と細胞壁 ○峯 一朗 ¹ ・宮川 慧大 ² (¹ 高知大・院・黒潮圏, ² 高知大・理・生物科学)	B22 渦鞭毛藻感染性大型ウイルス HcDNAV ゲノムに関する研究—予報 ○長崎 慶三 ¹ ・遠藤 寿 ² ・高野 義人 ¹ ・外丸 裕司 ³ ・櫻井 哲也 ¹ ・池田彩乃 ¹ ・大西 浩平 ¹ ・加藤 伸一郎 ¹ ・緒方 博之 ² (¹ 高知大, ² 京大化研, ³ 水研機構瀬水研)	
9:15	A21 海産緑藻フトジュズモの動接合子と遊走子の鞭毛装置・眼点の配置と協調的鞭毛運動の解析 ○宮村 新一 ¹ ・野村 真未 ² ・南雲 保 ³ ・稲葉 一男 ² ・河野 重行 ⁴ (¹ 筑波大・生命環境, ² 筑波大・下田臨海実験セ, ³ 越後自然誌研, ⁴ 東京大・FC 推進機構)	B23 播磨灘における植物プランクトンの冬季優占種遷移機構 ○横山 亜紀子・東 博紀・牧 秀明・吉成 浩志・金谷 弦・河地 正伸・越川 海 (国立環境研究所)	
9:30	A22 磯焼け海域におけるガンガゼ類除去法の検討 ○石川 達也 ¹ ・倉島 彰 ² (¹ 尾鷲市役所, ² 三重大院・生物資源)	B24 クロララクニオン藻への安定的遺伝子導入法の開発 ○平川 泰久 ¹ ・福田 耕大 ² (¹ 筑波大・生命環境系, ² 筑波大・院・生命環境)	
9:45	A23 オキナワモズクの発芽に及ぼす光量と光の色の影響 ○猪股 英里 ^{1,2} ・名越 日佳理 ¹ ・沼田 雄一郎 ¹ ・田中 厚子 ³ ・佐藤 陽一 ¹ (¹ 理研食品, ² 東北大・院・農, ³ 琉大・理)	B25 天然河川でのアユの採食が付着藻類の群落構造に及ぼす影響 ○阿部 信一郎 ¹ ・合屋国 祐 ² ・福原 叶恵 ¹ ・山田 陽喜 ¹ ・横田 康平 ³ ・竹門 康弘 ⁴ ・井口 恵一朗 ² (¹ 茨大, ² 長崎大, ³ 京大院農, ⁴ 京大防災研)	
10:00	A24 配偶体と孢子体を用いた F 統計量の定義とその性質 ○別所 和博 ^{1,2} ・Sarah P. Otto ³ (¹ 総合研究大学院大学, ² 学術振興会特別研究員 PD, ³ ブリティッシュコロンビア大学)	B26 トレボウクシア藻の強光ストレス条件下における色素変化とオイル蓄積 ○竹下 毅 ¹ ・柴田 洋 ¹ ・恵良田 真由美 ² ・宮下 英明 ³ ・河野 重行 ² (¹ アルガルバイオ, ² 東大・FC 推進機構, ³ 京大・院・人間環境)	
10:15–10:20		休憩	
10:20	A25 神奈川県ヶ島地先のムラサキウニからわかる植生の季節変化 ○西岡 浩 ¹ ・岡部 久 ² ・野口 遥平 ² ・藤田 大介 ¹ (¹ 海洋大・院・応用藻類, ² 神奈川水技)	B27 ヘマトコッカス藻の株間にみられる表現型とカロテノイド合成能の多様性 ○柴田 洋 ¹ ・三浦 昌也 ² ・鈴木 辰弥 ² ・竹下 毅 ¹ ・河野 重行 ³ (¹ アルガルバイオ, ² 東京大・新領域, ³ 東京大・FC 推進機構)	
10:35	A26 ワカメのフリー配偶体による屋内種苗生産法の現場導入 ○多田 篤司 ¹ ・棚田 教生 ¹ ・村瀬 昇 ² ・吉田 吾郎 ³ (¹ 徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課, ² 水産機構水大校, ³ 瀬戸水研)	B28 ラン藻 (シアノバクテリア) の分類の現状, リングビア属およびユレモ属を例に ○須田 彰一郎 ¹ ・Handung Nuryadi ² (¹ 琉球大学理学部, ² 琉球大学大学院理工学研究科)	

- 10:50 **A27** ミノガメのミノを構成するアオサ藻綱アオミソウ科藻類の種多様性
○市原 健介・宮地 和幸 (北大・FSC)
- 11:05 **A28** 日本産褐藻セイヨウハバノリ属の系統地理学的研究
○羽生田 岳昭・鈴木 雅大・川井 浩史 (神戸大・内海域セ)
- 11:20 **A29** 中国産緑藻アオサ属の系統分類学的研究
○孫 忠民¹・高 大海¹・李 宇航¹・季 琰² (¹中国科学院海洋研究所, ²青島職業技術学院)
- 11:35 **A30** 北半球冷水域に分布する褐藻ツルモ属 (コンブ目) の一新種について
○川井 浩史¹・鈴木 雅大¹・G.W. Saunders²・羽生田 岳昭¹ (¹神戸大, ²New Brunswick 大)
- 11:50 **A31** スサビノリとその隠蔽種の交雑実験
○二羽 恭介^{1,2}・阿部 知子²・小檜山 篤志³ (¹海洋大, ²理研, ³北里大)
- B29** 淡水・汽水・海水産ミクログレナ属 (緑藻類, オオヒゲマワリ目) の系統進化
○仲田 崇志^{1,2}・大瀧 果林^{1,3}・中野 陽睦^{1,3}・大谷 修司⁴・富田 勝^{1,2} (¹慶大・先端生命研, ²慶大・政策メディア・先端生命, ³鶴岡中央高校, ⁴島根大・教育)
- B30** 無殻渦鞭毛藻 *Kapelodinium* 属の 1 種にみられる葉緑体の起源と微細構造変化
○高橋 和也・岩滝 光儀 (東京大・アジアセンター)
- B31** タンザニア・ヴィクトリア湖産群体性ボルボックス目
○野崎 久義¹・松崎 令²・Benedicto B. Kashindy³・Charles N. Ezekiel³・河地 正伸²・相原 光人⁴・二階堂 雅人⁴ (¹東京大・理・生物, ²国立環境研, ³タンザニア水産研, ⁴東京工業大・生命理工)
- B32** ヒサカキ葉裏に生じる *Stomatochroon* sp. (緑藻, スミレモ科)
○周藤 靖雄¹・大谷 修司² (¹元島根林技セ, ²島根大・教育)
- B33** 沖縄のコンクリート構造物に付着するスミレモ類
○半田 信司¹・溝淵 綾¹・中原-坪田 美保²・坪田 博美³ (¹広島県環境保健協会, ²千葉中央博・共同研究員, ³広島大・院・理)

12:05 – 13:00 昼休み

3月17日 (日) 午後の部

13:00 – 14:00 ポスター発表 (偶数番号)

- PA02** 千葉県大原産寄生紅藻 *Gonimophyllum buffhamii* (イギリス目コノハノリ科) の形態
北山 太樹 (国立科学博物館)
- PA04** アオサ藻綱シオグサ目における発生様式の多様性と進化
○小山 知洋¹・奥田 一雄²・鈴木 秀和¹・田中 次郎¹・神谷 充伸¹ (¹海洋大・院・藻類, ²高知大・黒潮圏)
- PA06** 複数のノリ糸状体株のゲノム解析と比較
○木村 圭¹・永野 幸生²・小林 元太¹・川村 嘉広¹ (¹佐賀大・農, ²佐賀大・分析セ)
- PA08** Taxonomic study of *Catenella* Greville (Rhodophyta, Caulacanthaceae) in the Sundarbans Mangrove Forest, Bangladesh
○Md. Ariful Islam・Lawrence M. Liao (Hiroshima University)
- PA10** 紅藻アマノリ類の環境適応に関する生育特性
○神谷 有紀¹・菊地 則雄²・畠田 智¹ (¹お茶の水女子大学理学部生物学科, ²千葉県立中央博物館分館海の博物館)
- PA12** 褐藻類の微小藻体の COI バーコーディング
○関本 瑠菜¹・小亀 一弘² (¹北大・理, ²北大・院・理)
- PA14** 日本産褐藻ウスカヤモ (カヤモノリ科) の分類の再検討
○星野 雅和¹・羽生田 岳昭²・小亀 一弘¹ (¹北大・院理, ²神戸大・内海域セ)
- PA16** 日本産褐藻カジメ属における種間交雑体の発見
○秋田 晋吾^{1,2}・羽生田 岳昭²・小祝 敬一郎³・近藤 秀裕³・廣野 育生³・坂本 崇⁴・清本 節夫⁵・吉村 拓⁵・加藤 葉⁶・石川 達也⁷・倉島 彰⁸・藤田 大介¹・川井 浩史² (¹海洋大・応用藻類, ²神戸大・内海域セ, ³海洋大・ゲノム科学, ⁴海洋大・水族養殖, ⁵西海区水研セ・資源生産, ⁶増養殖研, ⁷尾鷲市役所, ⁸三重大・生物資源)
- PA18** 徳島県産ワカメ交雑種苗の培養による生育の適温と上限温度
○村瀬 昇¹・棚田 教生²・多田 篤司²・中村 孝志¹・野田 幹雄¹・阿部 真比古¹・島袋 寛盛³・吉田 吾郎³ (¹水産機構水大校, ²徳島農水総技セ, ³水産機構瀬水研)
- PA20** 室内培養下におけるヒイラギモクの不定胚形成過程の観察
○吉田 吾郎・島袋 寛盛・持田 和彦 (水産機構・瀬戸内水研)
- PA22** 鹿児島県与次郎沿岸における褐藻ヒジキの季節的消長
○杉江 透¹・遠藤 光¹・米盛 裕希子¹・寺田 竜太² (¹鹿大・水, ²鹿大・院・連農)
- PA24** 緑藻カサノリの人工栽培の実用化に向けて
○霜山 菜都乃¹・田端 重夫²・平中 晴朗³・池川 優子⁴・畠田 智¹ (¹お茶の水女子大学・理・生物, ²いであ (株), ³沖縄環境調査 (株), ⁴理研)

- PA26 生育期間の異なるオキナワモズク (*Cladosiphon okamuranus*) 由来細胞壁の分析**
 ○三輪 優香¹・板良敷 朝紀¹・田中 厚子²・沼田 雄一郎³・佐藤 陽一³・小西 照子¹ (1 琉球大・農, 2 琉球大・理, 3 理研食品)
- PA28 褐藻カジメの光合成に対する温度と光の影響**
 ○姫野 絢圭¹・Gregory N.Nishihara²・遠藤 光¹・寺田 竜太³ (1 鹿大・水, 2 長大・海セ, 3 鹿大・院・連農)
- PA30 ナラワスビノリ配偶体および胞子体の光合成に対して, 光・温度・乾燥が与える影響**
 弓削 智浩¹・渡邊 裕基²・森川 太郎³・三根 崇幸³・小園 淳平⁴・遠藤 光¹・Gregory N. Nishihara⁵・寺田 竜太⁴ (1 鹿大・水, 2 神戸大・内海域セ, 3 佐賀有明水振セ, 4 鹿大・院・連農, 5 長大・環シナ海セ)
- PA32 環境省モニタリングサイト 1000 沿岸域調査における藻場のモニタリング 2018 年の成果**
 ○寺田 竜太¹・阿部 拓三²・神谷 充伸³・川井 浩史⁴・倉島 彰⁵・本村 泰三⁶・坂西 芳彦⁷・鳥袋 寛盛⁸・田中 次郎³・青木 美鈴⁹ (1 鹿大・院・連農, 2 南三陸町, 3 海洋大・海洋環境科学, 4 神戸大・内海域セ, 5 三重大・院・生資, 6 北大・北方セ, 7 日本海水研, 8 瀬戸水研, 9 日本国際湿地保全連合)
- PA34 三重県早田浦に生息するウミヒルモ属 2 種の季節消長**
 ○藤原 寛斗・比嘉 瑠・倉島 彰 (三重大院・生物資源)
- PA36 多摩川河口干潟における絶滅危惧種アサクサノリの生態学的研究**
 ○菊地 則雄¹・佐川 麻理子²・中澤 満雄²・南 誓子³ (1 千葉海の博物館, 2 多摩川干潟ネットワーク, 3 元 (株) 白子)
- PA38 山梨県甲府盆地における淡水紅藻オオイシソウの発見**
 ○芹澤 如此古・原野 晃一・芹澤 (松山) 和世 (山梨大・教育)
- PA40 大型藻類における生産性と耐久性のトレードオフおよび関連した生理生態形質の相互依存性について**
 ○坂西 芳彦¹・葛西 広海²・田中 次郎³ (1 水産機構・日水研, 2 水産機構・北水研, 3 東京海洋大学)
- PA42 アサクサノリ・スサビノリの多価不飽和脂肪酸と環境適応の関係**
 ○瀬戸 彩映里¹・小林 哲幸¹・菊地 則雄²・寫田 智¹ (1 お茶大・院・生命科学, 2 千葉県博・海の博物館)
- PA44 藻場と磯焼け域におけるノコギリモク幼体の生長評価**
 ○松田 悠平¹・Gregory N. Nishihara²・井上 幸男³・大崎 幸一³ (1 長崎大・水産, 2 長崎大学・海洋機構, 3 長崎大学院・水環境)
- PB02 日本沿岸から分離された有殻渦鞭毛藻 *Azadinium* 属と *Amphidoma* 属の形態と系統**
 ○高橋 和也¹・Wai Mun Lum^{1,2}・Garry Benico^{1,2}・小澤 眞由^{3,4}・内田 肇³・及川 寛³・鈴木 敏之³・岩滝 光儀¹ (1 東京大・アジアセンター, 2 東京大・院・農学生命科学, 3 水研機構・中央水研, 4 海洋大・院)
- PB04 ピコ藻類を捕食する外洋性プロティストの多様性の研究**
 ○山本 皓貴¹・松田 知樹¹・瀬藤 聡²・日高 清隆²・柏山 祐一郎¹ (1 福井工業大学, 2 中央水産研究所)
- PB06 Taxonomic study of *Neolyngbya* spp. (Cyanobacteria) from three localities of Okinawan coasts**
 ○Handung Nuryadi¹・Shoichiro Suda² (1 Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus, 2 Faculty of Science, University of the Ryukyus)
- PB08 新奇原生生物 SRT308 株が明らかにするユーグレノゾアの初期進化**
 ○白鳥 峻志^{1,3}・矢崎 裕規^{2,3}・久米 慶太郎³・稲垣 祐司^{3,4}・橋本 哲男^{3,4}・石田 健一郎³ (1 海洋研究開発機構, 2 東京大, 3 筑波大・生命環境系, 4 筑波大・計算科学研究セ)
- PB10 宮城県沿岸の海産付着藍藻相**
 ○福岡 将之^{1,2}・鈴木 秀和²・神谷 充伸²・田中 次郎² (1 南三陸町, 2 海洋大・院・藻類)
- PB12 シラウオタケ属 (*Multiclavula*) の 2 種の担子地衣類における共生藻 *Elliptochloris* の系統・分類学的研究**
 ○升本 宙¹・半田 信司²・出川 洋介¹ (1 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所, 2 広島県環境保健協会)
- PB14 NBRP 藻類 第 4 期 2018 年度の活動紹介**
 ○山口 晴代¹・鈴木 重勝¹・川井 浩史²・羽生田 岳昭²・渡邊 裕基²・小亀 一弘³・河地 正伸¹ (1 国立環境研究所, 2 神戸大学内海域セ, 3 北海道大学理学研究院)
- PB16 セルロース誘導体の分解と吸収によるクラミドモナスの脂質蓄積**
 ○吉富 徹¹・青木 啓太^{1,2}・由井 宏治²・吉本 敬太郎^{1,3} (1 東京大学, 2 東京理科大, 3 JST さきがけ)
- PB18 ハプト藻 *Tisochrysis lutea* におけるオイル蓄積機構の解析**
 ○新家 弘也¹・栗木 愛菜¹・鈴木 石根² (1 関東学院大学・理工, 2 筑波大学・生命環境)
- PB20 Effect of music on planktonic microalgae culture**
 ○Man-Gu KANG¹・Chang-Hyeok LEE²・Akira KURASHIMA¹・Jong-Ahm SHIN³ (1 Graduate school of Bioresources, Mie University, 2 Jeollanam-do Institute of Ocean and Fisheries Technology, Jindo Branch, Korea, 3 Department of Aquaculture, College of Fisheries and Ocean Sciences, Chonnam National University, Korea)
- PB22 食用藍藻 *Arthrospira platensis* の持つ DNA 分解酵素の解析**
 ○林 翔太・白石 英秋 (京大院・生命)
- PB24 付着珪藻が潜水性海鳥ウトウを介して分散する可能性**
 ○吉岡 夢生¹・鈴木 秀和¹・神谷 充伸¹・綿貫 豊² (1 海洋大・藻類, 2 北大・資源生態)
- PB26 金属曝露ストレスによるホスファチジルイノシトール 3 リン酸の緑藻における細胞内動態**
 ○大田 修平¹・平川 泰久²・河地 正伸¹ (1 国立環境研究所, 2 筑波大・生命環境系)
- PB28 アルギン酸ゲル封入培養法による緑藻 *Chlamydomonas debaryana* のパルメロイド形成と増殖・脂質蓄積の促進**
 ○神永 紗英子¹・吉富 徹¹・佐藤 直樹¹・豊島 正和¹・森山 崇¹・吉本 敬太郎^{1,2} (1 東京大学, 2 JST さきがけ)
- PB30 珪藻 *Phaeodactylum tricorutum* における高温ストレスの影響**
 ○青木 日向子¹・辻敬典²・松田 祐介²・田中厚子¹ (1 琉大・理, 2 関西学院大・理工)
- PB32 パルマ藻の殻形成に関する形態学的解析**
 ○吉川 伸哉¹・山田 和正²・桂 大貴¹・一宮 睦雄²・桑田 晃³・佐藤 晋也¹ (1 福井県大海洋, 2 熊本県大環境共生, 3 東北水研)

- PB34** Chl*f*は光化学系IまたはIIのどちらに存在するのか？
 ○勝野 智也¹・長島 章浩²・谷本 千尋¹・真弓 智仁¹・宮下 英明²・小林 正美¹ (¹筑波大・物質工学域, ²京都大学大学院・人間・環境)
- PB36** 過酷な生育環境から単離された微細藻類の環境ストレス耐性機構の解析
 ○豊島 拓樹¹・吉田 梨沙子¹・吉田 嵩史¹・高市 真一²・川崎 信治^{1,2} (¹東農大・院・バイオ, ²東農大・分子微生物)
- PB38** 活性酸素消去能を有するポリカチオンを用いた微細藻類細胞の高効率な形質転換
 ○荻田 遥¹・吉富 徹¹・佐藤 直樹¹・吉本 敬太郎^{1,2} (¹東京大学, ²JST さきがけ)
- PB40** 緑藻ミル糸状体の培養時光照度に依存したカロテノイド蓄積挙動の解明
 ○関 荘一郎¹・藤井 律子^{1,2} (¹阪市大・理, ²阪市大・複合先端研)

14:00 – 18:00 **公開シンポジウム (国際科学イノベーション棟 5 階)**
「琵琶湖における藍藻類ブルームの現状と問題点, 対策と展望」

- 14:00 **開会挨拶**
 奥田 一雄 (日本藻類学会会長)
- 14:05 **趣旨説明**
 今井 一郎 (琵琶湖博・元北大)
- 14:10 **S1 アオコ問題は終わらない：日本も世界も、まだアオコで困っている**
 中野 伸一 (京大生態研)
- 14:40 **S2 藍藻類の分類：多面的手法を用いた琵琶湖産藍藻の分類**
 ○新山 優子・辻 彰洋 (国立科博)
- 15:10 **S3 アオコのモニタリング**
 一瀬 諭 (琵琶湖環研セ)
- 15:40–15:50 休憩
- 15:50 **S4 藍藻類がもたらす新たな問題：琵琶湖南湖で見られる底生糸状藻類の増加について**
 ○石川 可奈子¹・芳賀 裕樹²・酒井 陽一郎¹・井上 栄壮¹・アンユングブルト³・朴 虎東⁴・山口 晴代⁵・高村 典子⁵・横井 貴大⁶ (¹琵琶湖環研セ, ²琵琶湖博, ³大英自然史博物館, ⁴信州大理, ⁵国環研, ⁶京都水道局)
- 16:20 **S5 藍藻類と浄水処理**
 根来 健 (琵琶湖博・元京都水道局)
- 16:50 **S6 環境に優しいアオコ対策の提案と展望**
 ○今井 一郎¹・宮下 洋平²・小島 千里³・小林 淳希³・大洞 裕貴³ (¹琵琶湖博, ²岡山大資生研, ³北大院水)
- 17:20 **総合討論**
- 17:55 **閉会挨拶**
 宮下 英明 (京大人環)